

ボールあそびの集い

団体名●丸井ゼミナール／代表者名●飯島俊太（人間科学部こども学科 3 年）

はじめに

近年、インターネットや電子機器の普及により、子どもたちの遊びは、外遊びや運動遊びよりもオンラインゲームやスマホゲームなど室内遊びが多くなってきている傾向が見られる。それに伴い、運動能力の低下や仲間と一緒に運動する機会が減っている。そこで我々は、発育・発達が著しい時期である子どもたちに、多種多様な「ボール遊び」を通じて、学びや成長を促すと同時に、体を動かすこと、スポーツをすることの楽しさや魅力を味わってもらうため、また運動の習慣づくりの一つの方法の提供として、定期的に遊びの場を設ける活動を行なった。

活動内容

本学のハンドボール部の協力を借りながら、毎週月曜17時～18時の間で、週1回の活動を行なった。その日に行う内容を具体的に学生側があらかじめ決めておくのではなく、その場で子どもたちに何をしたいかを聞き、一緒にその活動を作っていくことを軸として活動を行なった。準備運動では、その日に行う活動に適した動作をおこなったり、鬼ごっこをおこなったり、個人もしくはペアで簡単なボール遊びを行なった。子どもたちの要望が多ければ鬼ごっこなどボールを使うことにとらわれず、多種多様な運動を通して、新たなきづきや遊ぶ面白さを味わってもらうように行なった。また、複数で遊ぶことで周りの人のことを考えながら協調性を感じることができ、楽しさだけでなく、スポーツを通して人としての成長を感じ合えるよう活動を行なった。

成果

本企画には、4人から5人程度の子供が参加をしてくれた。活動内では、基本的にゼミ生の内2名が指導員としており、子どもたちは時に自由に、時に学生の指示のもと、様々なレクリエーションを通じて、楽しく体を動かすことができた。またご両親の方々についても、「あんなに楽しそうに体を動かす子どもは久々に見た」「普段あまり遊べる場所がないから、こ

ういう機会を作ってくださり、感謝している」と、子どもたちにとっても、ご両親の方々にとっても、良い機会を提供できたことは、とても喜ばしいことであり、成果として感じている。

今後の課題・展望

今回のイベントでは参加人数が平均して、4人から5人程度、少ないと2人や3人の時もあった。満足度の高い活動にはなっているものの、この人数から場所の厳しさや、それらに伴う参加の障壁がまだまだ高いというふうに感じた。今後はもっとより多くの子どもたちにこの企画に興味を持ってもらうために、広報の方法の改善、リーチイベントとしてこどもフィールド演習で行っている別の活動でもある「スポーツマスター」の規模拡大などを目指していきたい。

